

「総合的な学習」指導のあり方に関する研究 —養成・研修段階における試みのカリキュラム論的意義— Constructing “Period for Integrated Study” Curriculum:

The Significance of Educational Practices in Pre-Service and In-Service Teacher Training Programs, from the Perspectives of Curriculum Theory

町田 健一 MACHIDA, Kenichi

● 国際基督教大学
International Christian University



総合的な学習, カリキュラム論, 教員養成・研修

Period for integrated study, curriculum theory, pre-service & in-service teacher training

ABSTRACT

平成10年度告示の指導要領より導入された「総合的な学習」のカリキュラム論としての意義づけを示し、ICUの教員養成プログラムにおける教育実践、また特に、キリスト教主義小学校における情報処理教育と組み合わせた「総合的な学習」カリキュラム構築と実施の試みをまとめ、望ましい展開の一例として提言する。

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (Monbusho), announced a new Course of Study in 1998. At that time, a “Period for Integrated Study” was introduced as one of a set of new curricular innovations at elementary, lower and upper secondary level schools. However, many teachers have been confused about its objectives and, furthermore, have experienced it as an undue increase in their workload.

The purpose of this paper is to discuss the significance of the “Period for Integrated Study” and to examine its effects on educational practice in two educational practicum contexts: in a pre-service teacher training program at ICU and in an in-service teacher training program at a Christian elementary school. I summarize five significant features and four problems, or issues, to be resolved, and I propose some needed efforts for curricular development.

1 はじめに

平成10年度（高校は11年度）告示の新指導要領において「総合的な学習」の時間が、「① 横断的・総合的な課題（例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康）」や「② 児童の興味・関心等に基づく課題」、「③ 地域や学校の特色に応じた課題」の学びのために設置された¹。当然ながら、各教科とは異なり、指導要領には総合的な学習の具体的指導内容は明記されていない。設置理由とその理念だけが示され、各学校に、そして、各教員にその指導内容・方法の選択、指導計画が委ねられたのである。ある意味では、児童・生徒に自由で主体的な、学習内容・方法の選択、学習計画の機会が与えられたとも言える。

しかし、小学校中学校では実施されてから少なくとも3年が経過しているにも関わらず、多くの学校が暗中模索の段階であり、「どうせ次の指導要領で消えるものだから」の声さえあり、以下の問題が明らかになってきている。

- ・忙しさの中で担当教員にまかせたままで学年的継続が配慮されていない。
- ・私学では、学校行事や英語教育等特色あるプログラムをやっているということで済ませている例まである。
- ・私学の一貫校であっても現在の小学生が中学校・高等学校に進学した先のことまで考慮されている事例はほとんどない。

さらに、今回の総合的な学習の導入が理念的には意義のあるカリキュラム改革であるにも関わらず、今後現実的により大きな問題になるであろうこととして以下のことがらがあげられる。

- ・「児童の興味・関心等に基づく学習」が強調され過ぎて、教師不在、生徒まかせの時間になっている事例が多く見られる。
- ・自然環境問題等、小学校でグループ研究をしたこととほとんど同じテーマで中学校でグループ研究するなど、内容的重複（楽を

する生徒）、下の学年で熱心で専門的に優れた教師の指導を受けたため、上級学年での学習活動の方がレベル低下等の事例がみられる。

今日、「総合的な学習」を各学年の年間計画として、また、学校全体の卒業までの数年間の学校カリキュラムとして、どう位置付けるかは重要な課題である。本稿では、「総合的な学習」のカリキュラム論としての意義づけを示し、ICUにおける教育実践、また特に小学校における情報処理教育と組み合わせたカリキュラム化の実践的試みをまとめ、望ましい展開の一例として提示することにする。

2 総合的な学習：「教科中心のカリキュラム」と「経験中心のカリキュラム」の融合

総合的な学習の位置づけには、少なくとも「教科中心のカリキュラム」と「経験中心のカリキュラム」双方の課題を押さえておく必要がある²。教科中心のカリキュラムは、理想的なカリキュラムのあり方をめぐる歴史的論争の中で、常に批判を受けつつ、しかし効率的に知識・技能の習得ができるカリキュラムの一形態として、学校教育において伝統的に支持されてきたものである。すなわち学問的内容のまとまりである「教科」をもとに編成されるカリキュラムで、Subject-centered CurriculumまたはDiscipline-centered Curriculumと呼ばれてきた。教科ごとの内容のまとまりを教材単位と呼び、系統学習が重視される。

教科中心のカリキュラムにおいては、現代国語、古典、漢文、物理、化学、生物、地学等々、細分化された「教科分立型カリキュラム」、教科名はそのままに指導時期の工夫も含めて教科内容の結びつきを考える「相関カリキュラム」、それぞれの細分化された教科を国語、理科、社会のようにまとめて一教科とする「融合カリキュラム」、理類領域・芸術領域などの領域設定や、

環境問題、平和・人権問題、性教育等、各教科の領域をまたがった学際領域のテーマを各教科の教員がチームを組んで指導する、学校独自に設定された「広域カリキュラム」等を考えることができる³。融合カリキュラムや広域カリキュラムの定義は研究者によって多少異なるが、ここでは現代社会でもっとも必要とされる学際領域を意識した定義とする。

経験中心のカリキュラムとしては、伝統的な教科中心のカリキュラムに対して、進歩主義の立場に立つ教育者から教育の根本を問う様々な提案がなされ、また実践が報告されている。代表的なものに、子供の興味・関心・必要に応える「児童・生徒中心のカリキュラム（学習者中心のカリキュラム）」と、子供が社会に出ていく時に体験するであろう問題を中心に組み立てる「社会（体験）中心のカリキュラム」があげられる。前者の具体的実践例として、フリースクールのカリキュラムがある。イギリスの教育者ニール（Neil, A. S.）が創設したサマーヒル（Summer Hill）⁴はアメリカに多くのフリースクールを生むことになる。日本においては一条校として、きのくにこどもの村学園がある⁵。後者の例として、農場、工場、売店、銀行などを校内で生徒に運営させる等、社会体験をさせるアメリカの教育学者キルパトリック（Kilpatrick, W. H.）の提唱するプロジェクト・メソッド⁶を取り入れた学校カリキュラムがあげられる。大正時代に日本でも東北地方の小学校で農業実践されたことがある。また、コア・カリキュラムとして日本の昭和22年の小学校、中学校の指導要領・社会科に影響を与えたアメリカのヴァージニア・プラン⁷や、児童中心主義の自由主義教育に対してより積極的に社会改革の機能を学校に課した地域社会学校（Community School）⁸のカリキュラムもある。一つ一つの教育的体験のまとまりを経験単元（または生活単元）と呼び、生活上の問題解決学習がその中心である。

学問的にカリキュラム論を展開するならば、上記いずれかの立場に立って議論をし、その実践方法を考えることになろう。しかし、学校教

育の場で現実的に教育実践を企画する時に、どちらか一方の立場でのみ突き進むのはいかなるものであろうか。なぜならば、教科中心のカリキュラムにも、経験中心のカリキュラムにも、それぞれ長所・短所が存在するからである⁹。前者は、学問体系を効率的に示し、探求的に学ぶ機会を与えるが、児童・生徒の学習への動機づけに弱く、教師からの「教え込み」になりやすい。逆に、後者の場合は、児童・生徒の生活に密着した学習のために、彼らの興味・関心と結び付き、主体的な学習意欲を引き出しやすい。しかし、教師の優れた助成的指導がなされなければ、学習は目先の狭いものになり、一般に効率も悪い。また、学問としての教科の構造もつかみにくい。すなわち、学校教育の現場においては、それぞれのカリキュラム理論をうまく織り込んでいく必要があるのである。

総合的な学習では、自ら学び自ら考える探究の過程を重視した「生きる力」の育成、自分の生き方についての自覚を深め、自己の在り方生き方をも考察する学習が求められている。確かに小学校や中学校の低学年では、より生活に密着した課題設定になり、また子供の興味関心から出発する課題研究になろう。しかし、学年が上にいく程、より学問的な広さ・深さ、すなわち、実社会や自然界を学際的な視点で研究できる資質の育成・訓練を重視する必要がある。指導する教師には、高いレベルの学問的な素養と研究者としての力量、教師のチームワークがより一層求められている。あくまでも児童・生徒の主体的取り組みが求められているが、課題設定はすべて子供の側からと思いついてはならない。先にも述べたように、「総合的な学習」には三つの課題がある。特に教科横断的な学際領域のテーマでは（具体的な取り組み段階の課題は別として、「平和・人権」「環境」「性」等の課題設定では）、より教師の啓発的な働きかけが期待されているのである。

また、児童・生徒が主体的に学習する前に、よく忘れられている指導課題として、図書館利用を含む情報検索・情報処理の指導がある。読

書離れが進み、図書館利用の仕方がわからない子供が増えており、リサーチをさせるためには、年齢に応じた指導が必要である。また、今の子どもたちはコンピュータいじりには慣れている。しかし、コンピュータ使用の倫理や、危険な情報に対して取捨選択できる判断力等を含め、具体的なコンピュータ使用の知識・技能の指導が求められている。

3 養成段階(ICU)の事例:「教育学演習:現代における教育の課題」

本学では、基本的に全教員がリベラルアーツ教育の根幹を為す一般教育科目を担当することになっている。その方針に則り、赴任した翌年の1993年から、教育学科から一般教育科目のうちの総合科目として「総合科目:現代における教育の課題」を開講した。新免許法に伴う再課程認定申請時に、この科目を教育学科の専門科目として、また教職課程の演習科目「教育学演習:現代における教育の課題」として対応できた。

この演習科目では、「21世紀に生きる子どもたちにどのような教育内容を提供したいか」として、特に学際領域のカリキュラム作りを目指す。学生参画型のグループ研究・討議を中心とした授業で、リサーチの仕方、プレゼンテーションの仕方、(他のグループ発表から学びつつ)ディスカッションの仕方を体験することになる。内容的には「全面発達と人格形成」「個性の伸長と創造性の育成」を考えさせ、さらに「平和・人権問題と教育」「社会福祉問題と教育」「自然環境問題と教育」等、3~4の具体的な課題を扱い、教員になる学生には、教科横断型の広域カリキュラムが組めるように、グループ発表のレジメが将来的な資料となるように指導している。各学生は上記課題より基本的に自由に1つを選び、5~6グループができる。1グループは2マスを担当、事前に様々な資料、体験をもとに望ましい教育内容について討論、自由な内容構成でリサーチをし、レジメを作ってグループ提案をする。さらに、発表・全体討議の後、学生

担当の不足内容を補いつつ「町田の主張」を行う形式である。この形式は、学校現場における「総合的な学習」の時間の指導の参考にもなると意義づけている。

この科目は、教職課程の必修演習科目ゆえに、基本的に2年生~4年生の人文科学科、社会科学科、語学科、理学科、教育学科、国際関係学科、すべての学科の教職課程履修学生が登録しており、学生たちはそれぞれの専門を活かして、グループに貢献できる。課題は学校現場で最も選ばれるもので設定しており、学生は与えられた課題から選ばねばならないが、その内容は全くグループに委ねられており、自分たちは何を子どもたちに伝えたいか、自由な討議をもとに、資料作りを含む内容構成を試みる。

4 研修段階の事例:私立小学校における「特色あるカリキュラム作り」

2002年秋より1年間、ある私立小学校で「総合的な学習」カリキュラム作成の指導・助言を行った。その小学校が所属している県単位の私立小学校協会主催の教員研修会のモデル校として、「総合的な学習」の学校カリキュラム作りを行い、2003年度より年間を通しての実践を目指したものである。2005年度は3年目を迎えている。本学で行っている上記科目が、実際の学校教育現場でどのように生き、継続できるか、課題は何かを確かめられたので、特記する。

4.1 指導計画

a. 各学年テーマと教師陣の研究体制

モデル校の規模は、教員数12名、各学年児童数30名程度の小規模の私立小学校である。第1回目の研究会でICUの上記授業を紹介、その意義と具体的展開を示し、具体的な指導計画を全員討議で行った。その結果、既に計画が始まっていた図書・コンピュータ活用指導と組み合わせ、以下のような総テーマを決め、各学年の固定テーマと年間スケジュールを決定した。担任が代わっても、各学年のテーマを固定し、児童は小学校3年から6年まで4年間、重複なしに4つ

のテーマを主体的に学ぶこととなる。

学校としての総テーマを建学の精神との関係づけから、「自分を生かし、他人を生かして～つながりを生かして～」として、3年次「郷土文化について考えよう」、4年次「福祉について考えよう」、5年次「環境について考えよう」、6年次「平和・人権について考えよう」と各学年のテーマを決定した。

具体的な指導内容・方法の計画は、小規模校のため教員数が少ないこと、準備期間が短いため、教員の研究グループを以下のように形成（*グループの責任教師）、2002年秋から2003年春までを2期に分け、前半を「郷土文化教育」「福祉教育」、後半を「環境教育」「平和・人権教育」の指導計画を協力して作成した。各教員が少なくとも2つのテーマの指導計画に携わったことは、その後他学年への担任移動の際にも役に立った。

| | | | |
|---------|-------|------|------|
| 郷土文化教育 | 3年担任* | 5年担任 | 1年担任 |
| 福祉教育 | 4年担任* | 6年担任 | 2年担任 |
| 環境教育 | 5年担任* | 4年担任 | 1年担任 |
| 平和・人権教育 | 6年担任* | 3年担任 | 2年担任 |

年間の時間配当等のおよその計画は「図表1」の通りである¹⁰。学年ごとの目標を設定し、4月から約2ヶ月間集中的に情報処理教育として図書・コンピュータ活用指導を行ったことは、先にも述べたように「調べ学習」の事前指導として特筆に値する（図表2、3）¹¹。ただし、これらの指導は実践的に具体的に全期間継続することになる。夏休み前から各学年のテーマのもと、グループごとに自由研究を行い（夏休みに継続）、秋に研究発表会を学年ごとに行い、その後3学期にかけて、担任教員がまとめと学年ごとに計画された内容の指導を行うこととした。

b. 「総合的な学習」のねらい：建学の精神との関わりで

「総合的な学習」の時間は、特別活動の時間と並び、私学においては特に「建学の精神」を具現化するカリキュラムが求められており、また、絶好のチャンスである。この私立小学校は、

知育・徳育・体育のバランスのとれた教育を目指すキリスト教主義学校であり、以下のような具体的目標を掲げている¹²。

- 知育 高い知識を持ち、自ら考え、正しく行動する。
- 徳育 神を敬い、人を愛し、進んで奉仕する。
- 体育 心身ともに健康な体力づくりをする。

今回、上記目標に合わせて「総合的な学習」のねらいを以下のように表現した¹³。

総テーマ：自分を生かし、他人を生かして ～つながりを生かして～

- ①自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力を育てる。
(知育)
- ②他者への関わりを大切にし、尊重・尊敬・思いやりなどの豊かな人間性を育み、相手を認め、共に生きる。
(徳育)
- ③健康で安全な生活について理解を深め、実践することができる能力や態度を育てる。
(体育)

その上で、各学年のテーマとねらいを以下のように設定した¹⁴。

<3年生> 「郷土文化について考えよう」

- ・地域の文化・伝統に誇りと愛情を持ち、理解を深めるとともに郷土に愛着をもつことができる。
- ・郷土の良さを知り、体験学習によって後世に伝承することができる。

<4年生> 「福祉について考えよう」

- ・高齢社会についての理解を深め、高齢者のために主体的に行動し、実践する能力を育成する。
- ・他者を尊重する態度や尊敬する気持ち、他人を思いやる気持ちや共に生きていくという考え方などを育む。

<5年生> 「環境について考えよう」

- ・環境やエネルギーについての理解を深め、

環境を大切に育てる。

- ・環境を見つめ、環境に触れ、環境を作る学習をし、主体的・積極的な環境への対応力を身につける。

<6年生>「平和・人権について考えよう」

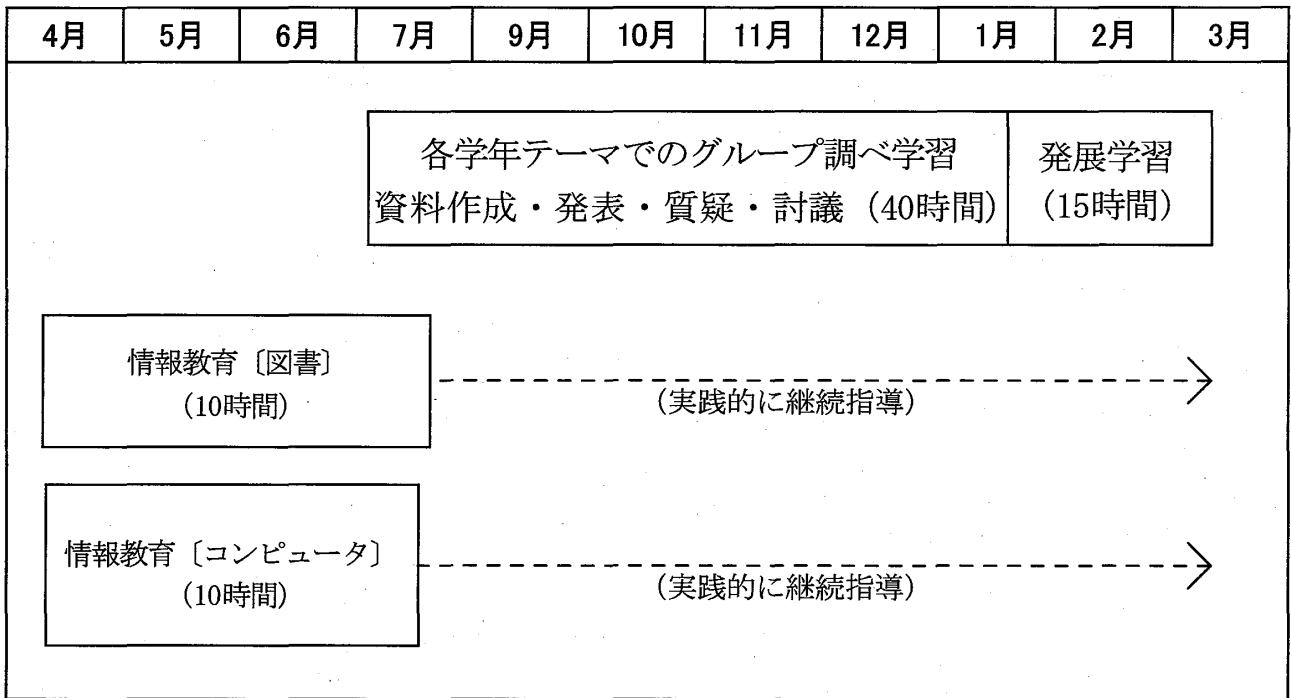
- ・被爆地広島からスタートし、平和の意義を

学び、平和な世界を築くためにはどうしたら良いかを自ら学びとる。

- ・人間の尊厳と権利が尊重され、偏見や差別を許さない・差別をさせない人間性豊かな精神を育成する。

<図表1> 年間計画 (75時間)

図書教育 (10) コンピュータ教育 (10) 調べ学習 (40) 発展学習 (15)
 (ほかに国際理解教育〔英語〕35時間を加えて「総合的な学習」全110時間)



<図表2> 情報教育1：コンピュータ利用

- 1年
- ① コンピュータ室の使い方とマナーについて学習する。
 - ② 起動と終了の仕方を覚える。
 - ③ 「タイニーパーク」などの知育ゲームソフトを用いてマウスの操作に慣れる。
 - ④ 「スマイルペイント」などのお絵かきソフトを用いてマウス操作の習熟を図る。
 - ⑤ 上書き保存 (HD上) の仕方を覚える。
- 2年
- ① コンピュータ室の使い方とマナー、コンピュータの起動と終了の仕方を復習する。
 - ② 「スマイルペイント」などのお絵かきソフトを用いてマウス操作の習熟を図る。
 - ③ お絵かきソフトを用いて描いた絵を、OHPシートに印刷してスタンドグラスのようなものを作成する。
 - ④ クリスマスカードまたは年賀状などのカード作りをする。
(画像の貼り付けや印刷の仕方を覚える)
- 3年
- ① 「一太郎スマイル」を用いて招待状作りをする。
(画像の拡大・縮小・貼り付けなどの習熟を図る)

- ②名前を付けて保存 (HD上) する方法を学ぶ。
- ③デジタルカメラの使い方を学ぶ。(取り扱い方・撮影・いらぬ画像の削除の仕方)
- ④ローマ字入力の練習 (自分の名前をローマ字入力できるようにする)
- ⑤ネットワークへの参加 (個人のユーザー名とパスワード)
- 4年 ①ローマ字入力の練習 (ワープロで自分の作文を打つことができるようにする)
- ②デジタルカメラの使い方を学ぶ (コンピュータへの画像の取り込み方を覚える)
- ③メディア (FD, CD-R) への保存の仕方を覚える。
- ④著作権・ネットワーク上でのルールとマナーについて学ぶ。
- ⑤インターネットの使い方 (ネットサーフィン・検索など)
- 5年 ①ローマ字入力の習得
- ②ネットワークとセキュリティーの問題 (ウイルスを含む) について学ぶ。
- ③インターネット上の情報の利用 (沖縄体験学習の事前学習・しおり作りなどに)
- ④メールソフトの使い方とエチケットを学ぶ。
- ⑤電子メールを利用する。〔姉妹校とメールによる情報交換〕
- ⑥スキャナーによる画像の取り込み方を学ぶ。
- ⑦プレゼンソフト「パワーポイント」を用いて、沖縄体験学習の報告をする。
- 6年 ①個人情報とセキュリティーの問題について学ぶ。
- ②プレゼンソフト「パワーポイント」を用いたプレゼンテーションの習熟。
(調べ学習のまとめを「パワーポイント」を用いて行う)
- ③表計算ソフト「エクセル」を用いて小遣い帳を作る。
- ④画像の編集の仕方を学ぶ。
- ⑤ホームページの作成と発表会

<図表3> 情報教育2：図書館利用

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1年 ①読書に親しみ、読書の習慣をつける ②図書室の決まりを学ぶ ③図鑑を用いて調べる方法を学ぶ ④感想文の書き方を学ぶ ⑤推薦図書100冊を読む 2年 ①低学年用の書架において自分で本を探す ②図鑑で調べる方法に慣れる ③調べた事を口頭で発表する ④推薦図書100冊を読む 3年 ①図書室内の配架や図書の分類を理解する ②公共図書館の利用方法を学ぶ ③図鑑や地図などを使用して調べる ④まとめ方の基本的ルールを学ぶ ⑤推薦図書100冊を読む 4年 ①必要な図書を自分で探す ②図書や図書館の歴史や意義を学ぶ ③テーマに沿って調べる | <ul style="list-style-type: none"> ④インターネットを使って調べる ⑤調べたことをわかりやすくまとめ発表する ⑥推薦図書100冊を読む 5年 ①コンピュータを使って図書を検索する方法を学ぶ ②情報源の種類と特性を理解する ③目的のテーマに沿った情報源を選択し調べる ④調べたことを順序良く構成してまとめる ⑤推薦図書100冊を読む 6年 ①コンピュータを使って件名で図書検索する方法を学ぶ ②自分でテーマを分析し調べたいことを見つける ③調べたことを自分の言葉でまとめ文章にする ④調べたことを分かりやすく伝える方法を考え発表する ⑤推薦図書100冊を読む |
|--|--|

4.2 計画の実施と結果

各学年のテーマに基づき、分かれたグループごとに思い思いの活動を企画、実行に移した。ただ、指導教師の導入部分の事例に引っ張られて、印象の強い学習内容に偏ってしまった嫌があったことも事実である。

2003年度秋に行った児童の発表は、5、6年生は、コンピュータにインターネットからの情報、写真等を取り入れて発表時の配布文書を作成、特に6年生ではパワーポイントにまとめ、各ブロックの担当者名を入れ、見学に出かけて取材した写真、情報を取り込んで発表したすばらしいものであった。

情報処理の取っ付き／慣れの差、個人・グループごとの進度の差が大きく、調べ学習、まとめのための資料作りに大きな時間差が出て、教師は大変だったようである。テキパキやる友人に任せ、または押されてお客さんになってしまう児童もいたこともいたが、しかし、全体として非常に熱心な取り組みが見られた。各教師は様々な質問に答える形で、当初準備した教科の枠を超えた指導内容を柔軟に変更しつつ「発展学習」として1年の締めくくりをした。6年担任教師が発展学習としてまとめた主な内容を以下に一例としてあげておく。時間的に広く平和・人権問題をまとめることはできていない。

- 5年次の沖縄訪問旅行の復習も兼ね、「沖縄戦について」「沖縄の戦後と米軍基地」
- 「広島歴史」「平和公園の碑について（碑文論争を含む）」「広島の主な被災地」
- 上記項目をもとに歴史、政治、科学の発展と倫理等をまとめる

2004年度に入って間もなく、1年間の学びを振り返って以下の調査を行った（複数回答可）。各項目について自由記述で書いたものをキーワードでまとめた結果は以下の通りである。

<生徒の感想>

図書検索指導について

| | |
|------------|-----|
| とても役に立っている | 34% |
| 役に立っている | 50% |

(役立った児童 合計84%)

| | |
|----------------------|-----|
| あまり役に立っていない | 16% |
| * 「役立った」生徒のうち | |
| 本を見つけやすくなった | 51% |
| 複数の本(資料として)を使うようになった | 27% |
| いろんなことを調べたくなった | 35% |
| 図書室に行く回数が増えた | 19% |
| その他(図書館が好きになった等) | 3% |

コンピュータ学習について

| | |
|-----------------------|-----|
| 前よりも操作が上手になった | 70% |
| インターネットで調べられるようになった | 61% |
| その他(ローマ字入力が高い、高度な操作等) | 11% |

グループ学習について

| | |
|---------------------|-----|
| 友だちと協力できるので良いものができる | 61% |
| 友だちに教えてもらえるので助かる | 34% |
| 楽しく学習できる | 65% |
| 一人の方がやりやすい | 8% |
| その他(相談するといい案が出る等) | 3% |

テーマ(授業内容)について

(具体的な内容でさまざまな表現をしているが) 授業内容(教師の展開、学年テーマ)は楽しく、友だちと協力して調べ、(テーマごとに)教科書とは別にいろいろなことを教えてもらえ、「世界観が広がった(6年生)」、役に立つ授業だった等、それぞれのテーマに関心が深まったことが、具体的に記述されていた。

<教師の感想>

教師の主な感想、課題は次のようなものであった。

教師の力量／得手不得手

- ・ 4年間でこれらテーマすべてを学習することができるのはいいと思うが、教師の得意、不得意に関係なく教える事がつらい時もあるのでは。
- ・ 実施2年目の4月に転任したてですぐに担当することになり、4テーマ全体についてはまだ良く分からない。(企画時から携わらないと、突然は難しい)

- ・忙しい中での教科書のない教材研究は大変である。

教育効果と課題

- ・それぞれ学年テーマとして学習をすすめやすいと思う。体験活動の時間確保が難しい。
- ・(生徒は)自分が求めている資料を探す方法が分かり、興味を持って調べられるようになってきていると思う。
- ・自分で調べる力は確実についていくと思われる。
- ・図書とコンピュータを上手に利用して学習を進めることで学習の理解が深まっている。
- ・協力して学習を進めることができる。課題は、友だちの力に頼り切ってしまう児童がいる点。
- ・ひとりの力で課題に取り組むことが困難な児童は、グループ学習をすることによって能力に応じた作業をすることができることもある。

養成課程への提言

- ・大学において、「総合的な学習」のカリキュラム作りをする訓練を受け、その結果の資料を持って赴任すれば、とても役に立てると思う。

5 考 察

今回の「総合的な学習」のカリキュラム構築の試みは以下の5点で非常に意義のあるものと考えている。第1に、小学校の事例は、教科横断型・学際領域のテーマを扱う広域カリキュラムとして立案されている点である。しかし、それぞれの展開の仕方は、ほとんどの時間が「経験中心のカリキュラム」として、児童中心・体験中心の活動となっており、さらに、「経験中心のカリキュラム」の弱点を補う形で、各教員がそれらの課題を児童が教科横断的・総合的に捉えられるように各学年の具体的指導内容を選択、また、講義や補充的な探究活動を用意していたことに意義がある(指導要領の課題①②)。

第2に、建学の精神具現化の努力がなされて

いる点である。私立学校が「特色ある学校創り」を考える時に、もっとも大事にしなくてはならないものは「建学の精神」である。今回の各学年のテーマは、人とのつながりを大事にし、自分の生き方を考えさせる、「キリスト教教育の理念」具現化の研究そのものであった(指導要領の課題③)。

第3に、各学年度のはじめに、それぞれの学年のレベルに応じた、コンピュータによる情報検索・処理、図書検索システム活用等の指導の時間を多くとり、また、夏休みの課題研究や学校での活動の報告書作り、ディスカッション、発表を通して、「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て」ている点である(指導要領の「総合的な学習」指導のねらい)。

第4に、3年生から6年生までのテーマを固定し、担任が代っても一生徒から見れば、4年間に4つのテーマを重複なく学べるという点である。

第5に、ICUの「教育学演習」での経験は、小学校の教員の準備段階に匹敵し、養成課程として有効であることが教師の感想から裏付けられた点である。

今後の課題としては、以下の4点があげられる。特にはじめの3点は、実施された小学校の教師たちの感想からである。第1に、教員の移動の問題である。1年目の計画が出来上がり、いよいよ4月から実践という時に担任が一人、3年目には校長と、系列校間での移動があった。校長は、理念的にも経済的にもカリキュラム運営の大事なサポーターでもあり、特に、担任は4月からすぐに指導することになる。自分の得意分野で、しかも実践してきた内容・方法で行うのであれば問題ないが、今回のような出来上がった学校カリキュラムに赴任してすぐに対応するのは難しい。公立校では当然四六時中起こる問題となる。

第2に、企画段階から教師グループで研究、討論して仕上げていても、内容的に得手不得手の問題があり、児童のグループ研究指導時に出

てくる問い、深めてあげなければならない内容、教師としてのまとめの弱さ等の悩みがつきまとう。

第3に、小学校教師の多忙さである。全科指導の準備が毎日あり、生活指導上の切りのない仕事がある。上記3つの課題は、教師がグループで、しかも他学年のテーマも協同して教材研究したり、数年実践して深めて行ける側面もあるが、事实现場の教師には負担の大きい課題である。

第4に、今回の試みでは根本的な解決になっていない今後に残された課題である。それらは、地域の、あるいは系列校の小学校との、横の情報交換および歩調を揃える問題であり、また、地域、あるいは系列校の、中学校・高等学校との縦の連携調整である。画期的な改革である「総合的な学習」が、密かにささやかれている「やめてしまえ」「すぐになくなるさ」の声に屈するか、根付くかは、今回の試みの意義を活かせるか、課題を解決できるかにかかっているように思われる。

註

- 1 小学校指導要領（1998年12月告示）、中学校指導要領（1998年12月告示）、高等学校指導要領（1999年3月告示）の各総則による。ただし、高等学校指導要領では、「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」が加えられて強調されている。
- 2 町田健一（2000）教科指導の考え方とその方法 鯉坂二夫監修 石田美清編『教育原理』保育出版社 91-97
- 3 井上治郎・下村哲夫・佐々木俊介編（1977）『現代教育原理』文教書院 57 他
- 4 堀真一郎（1988）『ニールと自由の子どもたち：サマーヒルの理論と実際』黎明書房
- 5 堀真一郎（1994）『きのくに子どもの村：私たちの小学校作り』ブロンズ新社 他
- 6 Kilpatrick, W.H. (1918) "The Project Method: the use of the purposeful act in the educative process" *Teachers College Bulletin* 10th ser. No.3 他
- 7 Caswell, H.L. & Campbell, D.S. (1935) *Curriculum Development* American Book Co. 173-174
- 8 Olsen, E.G. (1954) *School and Community* 2nd Ed. Prentice-Hall 他
- 9 金子敏（1941）『教育課程の新研究』学芸図書 218 他
- 10 広島地区私立小学校協会 教師研修会 配布報告書（2003）『自分を活か生かし、他人を生かして』 14-25
- 11 同上 11-12
- 12 同上 7
- 13 同上 7
- 14 同上 9-10